

全佛通信

五月号

発行所 財団法人 全日本仏教会
東京部中央区築地三ノ一(本願寺西) 電話 500323
振替東京 三三三 発行人 栗本俊道
編集者 別所弘因 印刷所 ルビニ社

参議院選挙と 仏教徒の要望

第六回の参議員通常選挙は、いまのところ特別の事態が発生しないかぎり七月一日に行われる公算が大きいとおもわれるが、これについて仏教徒はどのような心構えと態勢をとるべきであろうか。

参議院と議員のあり方については最近いろいろな議論も行われ、(その中には国会は一院制とせよとか、または参議院無用論をとる人ささえある)衆議院のゆき過

参議院選挙と 仏教徒の要望

ぎを抑えて国政審議に慎重味を加えるために、知性の豊富な人や、職能代表的な人々による二院制については、強ち無用論を唱えるほどの必要はないとおもわれる。

ただ衆議院にしても参議院にしても派閥争いや、利権争奪の場所らしく見せつけられると、国民としては国会審議の必要を感じながらも、国会を軽蔑したくなることは、やむを得ないので、いきおい

就任の御挨拶 金剛 秀一

今回小生図らずも理事会の推挙により会長の委嘱を受けて、財団



法人全日本仏教会の理事長に就任いたしましたことは、誠に光栄に存する次第であります。

御承知のとおり、全日本仏教会が新時代の要求に応じ、財団法人として発足致しましてから、早や五ヶ年の歳月が流れてゆくとおられます。その間幾多の重大時局に直面し、仏教界もまた内外の刺激を受けつつ、幾変転を経て今日に至っております。私は全日本仏教会が今日活躍し得るには、諸仏諸天の加護に依ることには言う俟たず、特に歴代の幹部諸師をはじめ、幾多の先輩同志の一方ならざる御苦心と御努力によるものと存じ、此等の御努力に對し衷心より感謝申上げると共に、全国同愛の仏教徒各位の御期待の万分の一に

も応えたい所存であります。現下の全日本仏教会には、墓地問題、農地問題をはじめマスコミ対策問題、新興宗教対策問題等の大問題が山積し、それらの調査研究は、当面最も重要なことであります。また教化運動の促進は勿論のこと、仏教による国際親善、文化交流の推進にも努力せねばならぬと信じます。私は加賀百三十有余の諸団体の絶大な御支援御協力の下に、賢明なる理事諸公の重要な御力添えにより、逐次此輩諸師、全国同愛各位の御期待に沿うよう微力を尽す覚悟であります。就任に際し、一言御挨拶を申上げます。

選挙や国会に對して無関心となり氣乗り薄となるのである。近代法治国家としての日本民族のあり方は、国際間において必ずしも悪い評判ばかりでもないようであるけれども、選挙に對する関心の度合いや、選挙方法、国会のあり方等に於てはきわめて初歩的であり未開国的であるとさえ評されることもある。

とくに宗教と政治の關係についてはヨーロッパ各国におくれていること、または不勉強の点に於て大きく取り上げられる問題である。故人となつた安藤正純氏がよく云われたが近代政治は、政教分離であることが望ましいのであるけれども、それを政教分裂と早合点してはならない。

経世済民という政治用語と、披苦与楽といふ仏教用語は実に表裏一体で離すことの出来ないごとく人間が社会をつくり、国づくりを成しとげてゆく場合、精神生活と物質生活をなしとげてゆくのである。

から、このためには宗教と政治は必ずならび行われてゆくことが自然であり必然であるかに考えられる。

それでヨーロッパにキリスト教による政党が生れ東洋に於て仏教による、アシヨカ王の政治や、聖徳太子の篤敬三宝の政治観があつたのも不自然ではない。然し現代日本の複雑した政治思想を有する今日に於て何々政治による政党や宗教政治結社が無条件に発展することは容易なことではあるまい。然し仏教国と云われる日本に於ても少し仏教徒が政治良識を豊富に持ち、もう少し積極的に政治に関心を持つようになることは日本の政治理念を向上させ、または現代日本の精神的土壌を健全化するために望ましいことではあるまいか。

仏教徒の中には頭から政治を不潔視する既成觀念があつて、現実の人生生活に遊離している態度をもつて本来の在り方の如く思つてゐることは仏教そのものをみづから萎縮せしめ無力化することになつてゐると思う。創価学会の活動等は(その正邪は別として)このかんげきに乘じて顕われたものとも見ることが出来る。

仏教徒としてこのたびの参院選挙に出馬される人々で噂に上つてゐる人々は、草葉隆円、川野三暎、中野文門、大谷望潤、小柳牧衛、今井裕中等の名前が伝わつてゐるのであるが、選挙対策としては去る四月十三日仏教政治同盟の主催で選挙法の所管大臣安井謙氏を囲んでいろいろと研究的意見交換会が行われたのでこれらの研究資料を参考にし、われわれ仏教徒として、または、全仏としては出来る

だけ合法的な方法と態勢をもつてこれら優秀な候補者を激励し且つその当選を期してやまないものである。

第十回 全日本仏教徒会議

大阪大会

- 一、期日 昭和三十七年六月一日(金)二日(土)
- 一、会場 第一日東本願寺難波別院(南御堂)

第二日四天王寺

- 一、開会式 六月一日午前九時
- 一、参加申込

五〇〇円(全日本仏教会宛)

〇宿泊(並に観光費) 大阪府 仏教会 大阪市内東区北久太郎町四、難波別院内へ

一、記念講演 講師 大阪府知事 左藤義詮氏

一、観光、見学(申込みは府仏事務所)

一、〇コース 叡福寺(聖徳太子御廟) 一萬井寺(西国第五番札所)等

一、Bコース 市内観光(費用Aコース三〇〇円、Bコース二六〇円、出発はA、Bコース共二日午後三時三十分所要時間凡そ、三時間半)

一、仏教音楽発表会 六月一日午後六時 相愛学園講堂

なお、参加希望者は所定の手続きを経て、至急御申込みのこと。

昭和三十七年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算書

歳 入
金 7,895,000 円也 歳入予算高

歳 出
金 7,895,000 円也 歳出予算高

歳入歳出差引残高なし

昭和 37 年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算

歳 入

款	科 項 目	目	予 算 額	前年度予算額	比 較 ○増 △減
1 負 担 金			7,200,000円	6,100,000円	○ 1,100,000円
	1 各 宗 派 負 担 金	1 各 宗 派 負 担 金	6,100,000	5,000,000	○ 1,100,000
	2 各 団 体 負 担 金	2 各 団 体 負 担 金	1,100,000	1,100,000	0
2 寄 付 金	1 寄 付 金	1 寄 付 金	200,000	200,000	0
3 未 納 徴 収 金	1 未 納 徴 収 金	1 未 納 徴 収 金	50,000	50,000	0
4 基 金 果 実	1 基 金 果 実	1 基 金 果 実	35,000	35,000	0
5 雑 収 入	1 雑 収 入	1 雑 収 入	400,000	400,000	0
6 繰 越 金	1 繰 越 金	1 繰 越 金	10,000	1,000	○ 9,000
	歳 入	計	7,895,000	6,786,000	○ 1,109,000

歳 出

款	科 項 目	目	予 算 額	前年度予算額	比 較 ○増 △減
1 事 務 所 費			4,664,000円	4,096,000円	○ 568,000円
	1 人 件 費		2,604,000	2,246,000	○ 358,000
		1 役 員 手 当	130,000	90,000	○ 40,000
		2 職 員 俸 給	1,572,000	1,422,000	○ 150,000
		3 諸 給	682,000	514,000	○ 168,000
		4 厚 生 費	170,000	170,000	0
		5 退 職 積 立 金	50,000	50,000	0
	2 事 務 費		960,000	850,000	○ 110,000
		1 借 館 借 室 費	300,000	300,000	0
		2 通 信 費	400,000	300,000	○ 100,000
		3 消 耗 費	50,000	40,000	○ 10,000
		4 光 熱 費	20,000	20,000	0
		5 備 品 費	20,000	20,000	0
		6 印 刷 費	150,000	150,000	0
		7 雑 諸 費	20,000	20,000	0
	3 旅 費	1 旅 費	500,000	500,000	0
	4 関 西 事 務 局 費	1 関 西 事 務 局 費	600,000	500,000	○ 100,000
2 総 務 局 費			1,261,000	1,070,000	○ 191,000
	1 会 議 費		641,000	600,000	○ 41,000
		1 理 事 会 費	81,000	81,000	0
		2 評 議 員 会 費	110,000	110,000	0
		3 各 種 委 員 会 費	200,000	200,000	0
		4 会 議 費	250,000	209,000	○ 41,000
	2 共 通 事 項 処 弁 費	1 共 通 事 項 処 弁 費	220,000	220,000	0
	3 調 査 研 究 費	1 調 査 研 究 費	200,000	50,000	○ 150,000
	4 涉 外 費	1 涉 外 費	200,000	200,000	0
3 組 織 局 費			1,310,000	960,000	○ 350,000
	1 組 織 強 化 費		700,000	500,000	○ 200,000
		1 組 織 強 化 費	200,000	200,000	0
		2 国 内 仏 教 徒 会 議 費	500,000	300,000	○ 200,000
	2 教 化 費		180,000	180,000	0
		1 講 習 会 費	100,000	100,000	0
		2 教 化 諸 費	80,000	80,000	0
	3 弘 報 費		430,000	280,000	○ 150,000
		1 機 関 誌 発 行 費	380,000	230,000	○ 150,000
		2 宣 伝 ・ 報 道 費	50,000	50,000	0
4 国 際 局 費			500,000	500,000	0
	1 国 際 運 動 費		500,000	500,000	0
		1 海 外 仏 教 使 節 接 待 費	170,000	170,000	0
		2 世 界 仏 教 徒 文 化 交 流 費	100,000	100,000	0
		3 国 際 仏 教 運 動 費	230,000	230,000	0
5 雑 費	1 雑 費	1 雑 費	50,000	50,000	0
6 子 備 費	1 子 備 費	1 子 備 費	110,000	110,000	0
	歳 出	計	7,895,000	6,786,000	○ 1,109,000

昭和三十七年度 予算を承認 常務理事、理事、評議員会等開催

新理事長に 金剛秀一氏就任

去る三月二十七日東京サポイに於て常務理事会が開催され、昭和三十七年度予算(総額七、八九五、〇〇〇円)が承認され、米英両国核実験再開に対する声明書、仏教東漸七十年記念事業に関する問題等が種々検討された。東漸七十年記念事業に関しては、事務が既に進み、記念会では役員、予算、開催の日程を決定公表し、今から全仏が主催すると云つても不可能であり、諸般難点あり、協賛の場合としても財政的難点は除外する立場を条件付け、最終決定について、は、理事長(全仏当局)へ一任される事となり、東漸事務当局者と連絡打合せを行い、諸般を検討し善処される事となつた。当日の出席常務理事は左記十二名(内委任四名)である。

来馬道断 長岡慶信 阿部慶昭 阿部竜伝 野村宗春 岩野真雄 山中忍海 山本 杉 倉持秀峰 加賀美日聡 末広愛邦 清水祐之 当局全員

翌二十八日築地本願寺会議室に於て理事会が開催され、来馬理事長は予算成立と共に辞意を表明し、末広愛邦、阿部竜伝、野村宗春、高橋隆天、松本徳明氏等が選考委員に挙げられその結果、後任理事長に曹洞宗々務総長金剛秀一氏が推薦された。次いで曹洞宗、高野山真言宗、真言宗智山派等の

宗派当局人事更迭に伴う全仏役職に選任する事を諒承した。その他の議題については評議員会と合同会議が持たれた。当日の出席理事は左記二十四名(内委任十二名)である。

来馬道断、阿部竜伝、末広愛邦、間野敬重、松本徳明、野村宗春、高峰秀海、渡辺俊英、高橋隆天、金剛秀一、宮前鳳洲、阿部慶昭、当局全員

○評議員会議事録要旨

一、日時 昭和卅七年三月廿八日 自午前十一時 至三時十分

二、場所 東京築地本願寺会議室

三、出席者 百名(内委任状七一通) 順不同略称

来馬道断 木村智広 小谷徳水 藤川 博 米山 久 荒井興範 木山十彰 村野宣忠 川口東晃 熊野竜夫 奥田行朗 高橋隆天 阿部竜伝 間野敬重 朽木正巳 野依秀市 高峰秀海 若槻修道 王生照順 山本宗源 二宮清海 松村寿顕 岩野真雄 吉本道堅 阿部慶昭 末広愛邦 野村宗春 金剛秀一 宮前鳳洲 (以上二十九名)

当局者 白山事務総長 栗本局長 狩野局長 別所部長 吉井部長 柳部長 門屋、相馬、鎌田主事

四、議題

- 1、昭和三十七年度全日本仏教会歳入歳出予算案
- 2、木全大孝監事死亡に伴い監事補欠選任に関する件
- 3、第十回全日本仏教徒会議に関する件
- 4、仏教会当面の諸問題に関する報告

五、議事経過及び決議

栗本局長の司会に依り開会し、白山事務総長より三十六年度事務、事業報告あり。次いで栗本局長より評議員人事異動につき報告あり、議長選出方を諮る。

当局一任の動議成立し、村野宣忠氏を指命す。
村野議長 就任挨拶あり、議事に入る。

栗本 欠員理事推薦の件を諮る。宗派当局者人事更迭に伴う曹洞宗(金剛氏外二名)、智山派(上野氏)高野山(高峰氏)の理事就任を諮る。

議長 理事推薦の件は、動議成立し当局案通り、承認可決確定す。

理事長 挨拶の後、予算編成方針につき報告あり。
議長 議案第一号昭和三十一年度全日本仏教会歳入歳出予算案を上程す。審議に入る。

額要請等あり、王生氏(近代仏研)より調査研究費につき質疑等あり。
議長 本案の可否を諮り、動議成立し、
昭和三十一年度全日本仏教会歳入歳出予算案は、原案通り可決確定す。
議長 議案第二号監事補欠選任に関する件を上程す。
栗本 木全大孝監事死亡に伴う補欠選任である旨説明あり、選出方を諮る。当局一任の動議成立し、兵庫県佐藤寛雄氏を推薦す。
議長 監事補欠として兵庫県佐藤寛雄氏を選任する旨を諮り、動議成立し可決確定す。
議長 議案第三号第十回全日本仏教徒会議に関する件を上程す。
狩野局長より六月一、二両日に亘り、大阪難波別院及び四天王寺に於て開催する旨、会議内容及び運営につき方針説明あり、質疑応答あり。
議長 休憩を宣す。
(十二時十五分)

議長 再開を宣す。
栗本 昭和三十六年度決算承認については、前例に依り追つて監事会、理事会の議を経て評議員宛文書を以つて報告、承認を得た旨を諮る。
議長 可否を諮る、動議成立し昭和三十六年度歳入歳出決算については、文書を以つて報告、承認可決する事を諒承す。
議長 議事録署名委員に左の二名を指名す。
二宮清海氏 吉本道堅氏
議長 理事会開催のため、暫時

休憩を宣す。
(午後一時二十分再開)
議長 再会を宣し、栗本局長より来馬理事長は、一身上の都合に依り辞任され、後任に金剛秀一氏が就任した旨報告があり、金剛新理事長の就任挨拶あり。栗本局長より評議員、理事合同会議に入る旨を諮り、村野議長は、合同会議に入るため、新理事長と議長を交代す。
金剛理事長 議長就任挨拶あり、議案第三号継続会議に入る。大阪開催地区を代表し、間野氏より協力方依頼の挨拶あり。本案は承認可決す。
金剛議長 議案第四号仏教会当面の諸問題に関する報告を上程、当局の報告説明を求む。
栗本 ①米英両国核実験再開に関する声明書(既に理事会の議を経ており、全日仏の名に於て内外へ声明する。②墓地問題(判決待ちの状態である。③解放農地補償問題(全国農地解放者同盟と協力し、運動解決に推進している。請願書を衆参両院宛提出す。全国寺院の解放農地調査は、集中中である。④宗教教育施設の問題(対策運動中である。⑤仏教東漸七十年記念事業に関する問題(理事会に於てはこの問題に関しては付帯条件を付し、事務当局者間に於て、名称のみの協賛を承認する方針である。)
議長 閉会の旨を宣し、閉会挨拶あり。
栗本 閉会挨拶あり。
(午後三時十分)

米の核実験宣言に

全仏が声明を公表

米大統領らへ強くアピール

既報のとおり、去る三月六日開催の全仏国際委員会において、米英における核爆発実験の再開宣言に対する全仏の声明案が審議されたが、三月廿八日の常務理事会席上この内容が一部修正され、別記の通りこのほど在日米、英両国大使館を通じて米大統領、英首相あてに送付した。なお同文は同時に在ビルマのWFB本部をはじめ、各国WFBセンターあてにも送られた。

声 明

我々日本仏教徒は、仏教本来の指導理念に基き、世界平和と人類福祉のため国際緊張の緩和に努めて来たが、世界の情勢はこれに反して暗雲は益々深く、遂に今回米国に於て核爆発実験が再開されんとすることは誠に遺憾な極みである。

我々は度重なる核実験により増大する放射性物質の災禍を恐れるばかりでなく、これによつて新しい核兵器が開発され、核戦争の恐怖を益々助長せしめることを恐れる。

我々は仏陀の慈悲と寛容の精神を以て、これら核兵器実験にかかわる其等指導者に対し、政治的かけひきを超えて強力にこれが実験の永久的中止を訴え、共に、世界平和と人類幸福に対する一大脅威

の除去に、最大の努力を払わねばならない。

今回の米国及英国に於ける核実験再開は遺憾な極みであるが、核兵器所有の各国は速やかに国際正義と人道とによる国際秩序を打立てるべく協力せられんことを強く要望し茲に内外に声明する。

昭和卅七年三月廿八日
財団法人 全日本仏教会

各宗内局の異動に伴い

全仏理事以下が交替

さきの各宗派内局異動に伴い、全仏理事長、理事、評議員等の役員が交替したので左のとおりお知らせする。

一、曹洞宗

(新)	理事長	金剛秀一
(旧)	理事長	宮前鳳洲
(新)	理事	宮崎文輝
(旧)	理事	二宮清海
(新)	評議員	大場竜賢
(旧)	評議員	若槻修道
(新)	理事	中島徳芳
(旧)	理事	佐々木悟山
(新)	理事	村馬道断
(旧)	理事	村上道隆
(新)	評議員	大遠野義宗
(旧)	評議員	遠藤道雄

谷北俊竜
山本宗源

二、真宗大谷派

(新) 理事 嶺 藤 亮
(旧) 評議員 宮地 義 亮
(旧) 理事 経本 壬 寅
評議員 佐々木 近 衛

三、真言宗智山派

(新) 理事 上野 頼 栄
(旧) 評議員 竹村 教 智

四、高野山真言宗

(新) 理事 高峰 秀 海
(旧) 評議員 津田 実 雄

五、静岡県仏教会

(新) 会長 二宮 清 海
(旧) 評議員 木全 大 孝

なお長年に亘る各位の御労苦に對し紙上より厚く御礼申上げます。

第七回全日本仏教講習会

八月二十一日 高尾山に決定

恒例の全日本仏教講習会は、本年は第七回目を迎へ、このほど東京都下八王子市大本山高尾山薬王院側(中央線高尾駅下車)の御諒解を預き、八月二十、二十一の両日に亘つて開催されることに決定しました。

全国同憂各位の多数御参会をお願い致します。詳細については後日お知らせします。(組織局)

全仏常務理事会結論を 仏教東漸七十年会へ回答

すでに報せられている「仏教東漸七十年記念会」は過般鈴木大拙博士を会長として発足し、計上予算二千万円の下に、本年十月には日本仏教代表を米本土へ派遣し国際仏教会議を開催し、また同時に国内に於ても会議を催す等、諸事業を計画し、逐次その準備を進めているが、去る二月廿八日付の鈴木記念会々長名による公信が全仏理事長宛に寄せられ、右記念事業施行に際して全仏の協賛方の依頼を申出て来た。全仏では直ちに關西事務総局、及び東西両本願寺等の意向を打診したところ、趣旨には賛同するが、宗派としては考へていないとの意向を聴取した。

次いで三月廿七日の常務理事会に於て、本件が審議され、左の結論に達したので、その旨四月一日付公信を以て直ちに鈴木大拙会々長宛に回答した。

なおこれに先立ち、全仏としては右記念会側と細部に亘る打合せ

をするため代表者へ面会を申し入れたが、これは実現を見ずに終つてゐる。

全仏の回答要旨

- 一、趣旨には賛同するが、協賛の名義のみに止めること
- 二、全仏加盟各宗派、諸団体への募財はなるべく遠慮願いたいこと。
- 三、全仏関係役員は個人の立場でのみ参加すること。

井上恵行氏

感謝慰勞会開催

長年に亘つて文部省宗務課専門員として教界のため尽力して来た井上恵行氏は、このほどその要職を退かれたが、氏の長年の労苦を慰勞、感謝の会が三月二十八日午後六時から東京日比谷の松本楼において、全仏、東京仏教団、埼玉県仏三者共催のもとに盛大に開催された。当日は都内近県から四十名の参会者があり、各氏の感謝の挨拶について井上氏は「今夜諸大徳先輩多数が私のために慰勞の会を催して頂き感激に耐えない。文部省は退いたが、今後も仏教界のために一と挨拶し、終つて記念品として金襴の輪袈裟が贈られ午後八時過ぎ散会となつた。当夜は全仏新・旧両理事長以下全員が出席した。

あとがき

△新理事長に金剛秀一氏就任。山積する重要問題に卓越せる手腕が大いに期待される。

△参議員選挙も最近か。昭和卅一年以来の創価学会の政界進出はめざましい。今回も九名が立候補して全員当選をもくろんでいる。

△我仏教界からも有能な六名が立候補するもよう。全員当選の為積極的応援がのぞまれる。(K生)